

「ASEAN次世代航空保安システム整備共通行動計画」について

➤ 「ASEAN次世代航空保安システム整備共通行動計画」とは

日ASEAN交通連携プロジェクトの一つとして、ASEAN地域における次世代航空保安システム(CNS/ATM)の導入のための、日本とASEANの共通整備方針。

< 概要 >

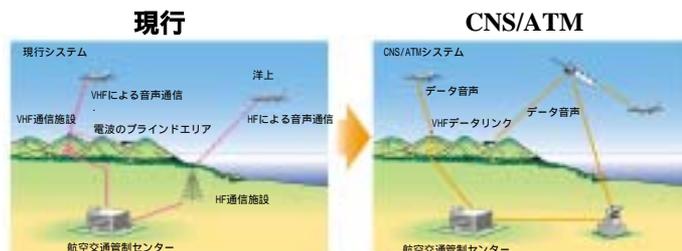
- ・ 2005年末までに、国別の通信(C)・航法(N)・監視(S)、航空交通管理(ATM)、衛星を利用したデータリンクの整備計画概略案を策定する。
- ・ フィリピンのマニラ航空保安大学にて、ASEAN各国の担当者を対象としたCNS/ATM基礎研修を実施する。

➤ 次世代航空保安システムとは

国際民間航空機関(ICAO)が2010年を導入目標として提唱したものであり、衛星等の技術を利用することにより、通信・航法・監視/航空交通管理の能力を高め、増加しつづける航空交通量に対応可能とするもの。

通信(Communication)システム

衛星通信を利用し、高品質な音声及びデータ - 通信機能を提供するシステム



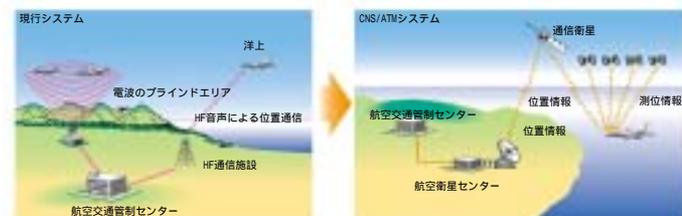
航法(Navigation)システム

GPS等の測位衛星と、その精度及び信頼性を補強するシステムを用いることにより、グローバルな航法サービスを提供するシステム



監視(Surveillance)システム

衛星データリンクを利用し、航空機の位置を洋上管制を行う管制官のディスプレイに表示するシステム



運輸多目的衛星(MTSAT)

我が国が2005年に打ち上げた運輸多目的衛星(MTSAT)は、通信・航法・監視の機能を提供し、広くアジア太平洋地域をカバーするため、ASEAN地域への次世代航空保安システムの導入に貢献することが可能である。